



本がつくる出会いを大切にしたい

木之本虫プロジェクト

久保寺 容子さん(相撲町)

撮影場所：あいたくて書房(木之本町木之本)

「本は単なるモノではなく、人をつくるものだと思うんです。読んだ本の何かが記憶の片隅にあって、その人をつくる糧になる。だから『本』との出会いとは、『自分』との出会いなんじゃないかと感じています」と語る久保寺さん。その言葉には本に対する深い思い入れを感じさせます。

木之本で本にまつわる活動を始める大きなきっかけとなったのは、かつて勤務していた江北図書館。明治39年設立の私立図書館で、本の巡回を行うなど当時としては先駆的で高い志を持った図書館が木之本にあるという事実を知り、「こんなに素晴らしい文化の中で育ったものを大事にしたい。このまちで本に関わっていききたい」という思いが強くなります。

2015年に本が好きな仲間同士で集まって「木之本虫プロジェクト」を結成。JR木ノ本駅に“いつでも誰でもいつまでも”本を借りることができる「まちあい文庫」をつくったり、空き家を借りて誰もが本に親しめる場を設けるなど、本好きらしいユニークな発想を生かした活動を始めます。

プロジェクトでの取組が徐々にまちの人たちの興味や共感を生み出し始めたのを追い風に、今年6月、メンバーで構想を温めてきた古本市「いろはにほん箱」を開催。市内で初の試みでしたが、メンバーの不安をよそに県外からも多くのお客さんや出店者が本との出会いを求めて集まりました。「誰かが読んで感動した本

が、また別の人に読まれ感動を与える。古本に再び命が吹き込まれるような瞬間を目にして最高に幸せでした」。

久保寺さんが北国街道沿いに構えた古本屋「あいたくて書房」も7月で1周年を迎えました。詩人工藤直子さんの詩「あいたくて」から命名したというお店の名前には、“本との出会い、本を通じての人との出会い、そして自分に会える場をつくりたい”という想いが込められています。「お客さんと本のことを話しているときが一番楽しいです。人と人をつなぐ役割を担うお店になれば」。

本と人への愛で溢れている久保寺さんは、今日も本を通じていろんな出会いを届けます。

## Smile Smile

このコーナーでは、市内在住のお子さんたちの写真を掲載します。  
笑顔と元気あふれるお子さんたちの写真を募集しています。  
掲載を希望する人は市民広報課（☎65-6504）まで申込みください。



いつも元気なかなちゃん！  
おはなしもいっぱいできるようになったね  
♡たくさん遊んですくすく育ってね♪

中井

奏太ちゃん（平成27年10月生まれ）  
（川崎町）

野洲

月ちゃん（平成27年8月生まれ）右  
奏多ちゃん（平成29年1月生まれ）左  
（平方町）



ふたりは、家族の大切な宝物♡  
あなた達の未来が、豊かで幸せにあふれますように。  
パパとママは、ずっと応援していきます。

まちの  
人口

平成29年7月1日現在 人口 119,566人 男 58,509人 女 61,057人 世帯数 45,231世帯  
平成29年6月中の異動 転入 211人 転出 237人 出生 59人 死亡 91人 婚姻 42件



植物油インキで印刷しています。再生紙を使用しています。

「広報ながはま」は、各自治会を通じてお届けすることを原則としていますが、市民交流センターや図書館、まちづくりセンターなど市の公共施設にも置いてあります。市ホームページ、スマホからもご覧いただけます。点字広報、声の広報をご希望の人は市民広報課まで。